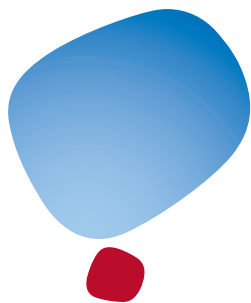




第 **3** 期

事業活動のご報告

(2010年4月1日～2011年3月31日)



Otsuka

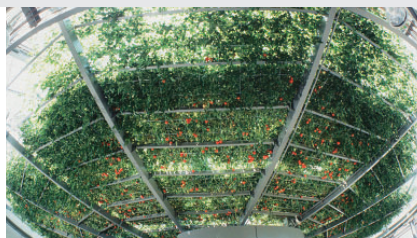
Otsuka-people creating new products
for better health worldwide

大塚ホールディングス株式会社

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する

大塚グループは、この企業理念のもと、大塚の遺伝子である「実証と創造性」を受け継いで、「大塚だからできること」「大塚にしかできないこと」を日々実践しようと努め、革新的で創造性に富んだ医薬品や機能性飲料・機能性食品などの幅広い製品・サービスを通じて、世界の人々の暮らしをサポートしてまいります。大塚グループは、健康に携わる企業にふさわしい文化と活力を育み、グローバルな視点から地域社会や自然環境との共生に配慮し、人々のより豊かで健康な暮らしに貢献したいと願っています。



大塚グループの理念を具現化した、 「巨大なトマトの木」「曲がった巨大杉」「水に浮かぶ石」

グループ発祥の地、徳島にあるこの3つのモニュメントは大塚グループの理念の根幹をなす「創造性」を具現化したものであり、常に創造性や発想の転換の重要性を伝えています。

大塚ホールディングス 東京証券取引所市場第一部に上場

当社は、2010年12月15日に東京証券取引所市場第一部に上場しました。上場日に東京証券取引所で行われたセレモニーでは、多くの市場関係者から祝福を頂きながらも厳粛な雰囲気の中、上場通知書贈呈式、打鐘式などの行事が執り行われました。

上場セレモニーで打鐘する代表取締役会長 大塚明彦



Contents

- 02 株主の皆様へ
- 03 社長インタビュー
- 07 連結財務ハイライト
- 08 セグメント別概況
- 11 連結財務諸表
- 13 開発品の状況
- 15 トピックス
- 16 CSR
- 17 会社概要

“創造性”を追求し、 グローバルヘルスケア企業として 新たな成長ステージへ



株主の皆様には、平素より当社の事業に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は東日本大震災という未曾有の大災害が日本を襲いました。亡くなられた方々に深く哀悼の意を表し、被災された皆様、及びご関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当社は、2010年12月15日に東京証券取引所市場第一部に上場しました。これも株主の皆様をはじめステークホルダーの皆様のご支援・ご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。

当社は、'Otsuka-people creating new products for better health worldwide'の企業理念のもと、世界の人々の健康に貢献することを目標に事業を展開するグローバルヘルスケア企業です。病気の診断と治療に寄与する「医療関連事業」と、日々の健康の維持・増進をサポートする「ニュートラシューティカルズ*関連事業」を2本の柱にヘルスケアをトータルでとらえ、世界23カ国・地域に広がるグループ社員が、“健康”という人類の普遍的な願いに貢献すべく、様々なテーマに挑戦しています。

2010年度の業績は、長期化する円高の影響を大きく受けたものの、医療関連事業では米国における「エビリファイ」の継続的な成長、

国内では「アロキシ」「アブラキサソ」「イーケブラ」「サムスカ」といった新薬の貢献、また、ニュートラシューティカルズ関連事業では昨年発売30周年を迎えた「ポカリスエット」の大幅増などに支えられ、増収増益という結果になりました。

当社は今、新たな成長ステージに取り組むため、2011年度を初年度とする第一次中期経営計画を策定しました。

また、当社グループは今年で創業90周年を迎えますが、これまで一貫して、今までにないものを生み出す“創造性”、そして物事を成し遂げるという“実証”をキーワードに、「ものづくり企業」であることにこだわってきました。今後も、「大塚だからできること」「大塚にしかできないこと」の視点から世の中に貢献することを追求し、当社らしいユニークな製品・サービスを提供し続けることで、持続的な成長を目指してまいります。

新たなステージに向けて一歩を踏み出した大塚グループへ、皆様の尚一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 兼 CEO

樋口達夫

* nutrition(栄養)+pharmaceuticals(医薬品)の造語

東日本大震災によりグループは どういう影響を受けましたか

今回の震災による当社グループへの影響は、経腸栄養製品を製造するイーエヌ大塚製薬株式会社(連結子会社)の花巻工場(岩手県)で一時操業が停止、またグループの物流を担う大塚倉庫株式会社(連結子会社)の仙台と浦安の倉庫で荷崩れが発生するなどの被害がありましたが、業績への大きな影響はありませんでした。

今後、電力事情による一部工場の生産への影響が想定されていますが、企業として節電等には積極的に協力する予定です。また、自社においては自家発電機の導入や他工場への振り分け生産の実施などにより、製品の安定供給というメーカーとしての責任を果たすべく最大限の努力をしております。

大塚グループの 特長について教えてください

当社は、企業理念に基づき、健康に関わる様々なテーマに取り組み、創造性のある製品で新たな市場をつくり、世界の人々に貢献することを目指すグローバルヘルスケア企業です。

病気の診断から治療までを担う「医療関連事業」と、日々の健康の維持増進をサポートする「ニュートラシューティカルズ関連事業」(以下「NC関連事業」)を2大コア事業としていることが特長です。

医療関連事業では、未充足な医療ニーズに対応するため、中枢神経領域、がん領域を中心に、循環器領域、眼科領域などにおいても事業展開を進めています。

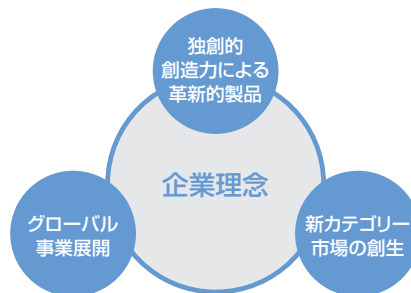
■大塚グループ企業理念

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

(世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する)

グローバルヘルスケア企業

- ◎医療関連事業：アンメットメディカルニーズの高い領域を中心
- ◎ニュートラシューティカルズ関連事業：機能性飲料・機能性食品



■大塚グループのビジネスモデル

人々の「健康」に関するあらゆるテーマで事業を展開
"ものづくり"にこだわるグローバルヘルスケア企業

医療関連事業

病気の診断から
治療まで

- ◎エビリファイが収益を牽引
- ◎輸液・がん領域のリーディングカンパニー
- ◎未充足領域へのチャレンジ

ニュートラ シューティカルズ 関連事業

日々の健康の維持・増進をサポート

- ◎独創的な製品の創出
- ◎新しい市場カテゴリの開拓
- ◎強力なブランド力

高い収益性と成長性

安定的な収益基盤

2大コア事業による「健康」への貢献
両輪でのグローバル展開

- ◎各エリアでの自社生産・販売基盤
- ◎市場開拓に豊富な経験(輸液事業→NC関連事業→医療関連事業)

一方、NC関連事業ですが、これは、「栄養」を意味する nutrition と「医薬品」を意味する pharmaceuticals を組み合わせた造語です。当事業では科学的な根拠に基づいて開発された機能性飲料や機能性食品で、日常の生活に栄養という概念を取り入れ人々の健康に貢献することを目指しています。

これまで、医療関連事業では世界初のドパミンパーシャルアゴニストである抗精神病薬「エビリファイ」や、海外での低ナトリウム血症の適応症取得に続き、国内では心不全における体液貯留改善の効能・効果を取得した世界初の経口水利尿薬「サムスカ」など、数々の革新的な新薬を世に送り出してきました。またグループの創業期からの基盤事業である輸液や、がんの分野でも国内でリーディングカンパニーとしての地位を築いています。NCの分野では機能性飲料やバランス栄養食という新しい市場を創出した「ポカリスエット」や「カロリーメイト」など時代を先取りする製品を多く生み出し、かつ、それらがロングセラーになっているという点も当社の特長だと考えています。

最近では、健康問題、食糧問題、環境問題など人類が抱える様々な問題を「大豆(Soy)」が「解決(Solution)」するという「Soylution」をテーマにした大豆関連製品の開発を進めており、2006年の「SOYJOY」、2010年の「SOYSH」などユニークな製品を発売しております。

株式上場の 目的について聞かせてください

当社は、2010年12月15日に東京証券取引所市場第一部へ上場しました。このことで企業のブランド価値が高まり世界

的な人材の採用や、資本市場からの資金調達等により選択肢が広がった成長戦略を一層推進することが可能になりました。医療関連事業では継続的な研究開発や開発品目の拡充、NC関連事業ではグローバル展開を加速してまいります。

当社はこれまで様々な挑戦と変革を通じて成長してきました。上場をきっかけに、新たな成長のための挑戦と変革に取り組んでまいります。

また、情報開示やコンプライアンス、企業統治の更なる強化への取り組みを通じて、あらゆるステークホルダーの皆様にご信頼頂けるよう、これまで以上に企業としての透明性も高めてまいります。

当期の経営環境と 連結業績についてお聞かせください

欧州の金融不安や円高の長期化、米国や日本を中心とする医療費抑制策の一層の進展、東日本大震災の影響による市場への影響等、先行き不透明な世界経済の情勢が続いています。

このような環境下ではありますが、2010年度(第3期)の当社の売上高は1兆902億円(前期比0.5%増)、営業利益は1,175億円(同19.3%増)、経常利益は1,265億円(同16.0%増)、当期純利益は810億円(同20.1%増)となり、増収増益を確保しました。

事業別では医療関連事業の売上高が7,214億円(前期比0.8%増)となりグループ全体を牽引しています。NC関連事業の売上高は2,495億円(同1.0%増)、消費者関連事業の売上高は468億円(同6.7%減)、その他の事業の売上高は726



億円(同1.8%増)でした。

一方、営業利益は医療関連事業が1,344億円(前期比1.2%増)、NC関連事業が179億円(同691.9%増)、消費者関連事業は営業損失として21億円、その他の事業が44億円(同1.9%減)となりました。事業の拡大とともに、コスト構造の見直しなど収益改善に向けた取り組みを継続して進めています*。

* 業績の詳細については、P7-12をご参照ください。

2011年度の展望について 聞かせてください

医療関連事業では、「エビリファイ」が米国における医療制度改革等の影響はあるものの、継続して売上が伸長すると見込んでいます。また、「アロキシ」「アブラキサン」「イーケブラ」「サムスカ」といった新製品の伸展が売上増加に貢献すると期待しています。一方、中枢神経領域でアリピプラゾール持効性注射剤や次世代の抗精神病薬OPC-34712など医薬品開発品目の開発状況の進捗に伴い研究開発費が大きく増加しますが、将来の成長のために必要な投資だと考えています。NC関連事業では、引き続き製品価値訴求型の販促活動に注力するとともに、利益構造の改善に取り組みます。

2011年度 業績見通し

(単位:億円)

	2010年度 (実績)	2011年度 (見通し)	対前期増減(予想)	
			増減額	増減率
売上高	10,902	11,700	798	7.3%
営業利益	1,175	1,200	25	2.1%
経常利益	1,265	1,270	5	0.4%
純利益	810	820	10	1.2%
研究開発費	1,645	1,890	245	14.9%
1株当たり 純利益(円)	162	147	△15	△9.1%
1株当たり 配当金(円)	28	45	17	60.7%

予算レート(米ドル)85円 予算レート(ユーロ)115円

第一次中期経営計画について 教えてください

当社は2008年7月に純粋持株会社として設立後、グループ全体の再編を通じて新しいガバナンス体制を構築してまいりました。2011年度を初年度とする第一次中期経営計画を策定し、以下に示す施策を確実に実行することで、企業価値の向上を目指します。本中期経営計画期間は、グローバルヘルスケア企業として、トップクラスを目指す体制整備にめどをつける3年間と位置づけています。

■第一次中期経営計画の位置づけ

「医療関連事業」と「NC関連事業」を両輪とするグローバルヘルスケア企業として、世界トップクラスを目指す体制整備にめどをつける3年間

主な施策

革新的自社医薬品の育成

NC関連事業利益成長のための収益構造改革

戦略的提携等による次世代事業の育成

■中期経営計画 計数目標

(単位:億円)

	2010年度実績	2013年度計画	CAGR
売上高	10,902	13,300	6.9%
(海外売上高比率)	47%	50%	
研究開発費	1,645	2,000	6.7%
対売上比	15.1%	15.0%	
営業利益	1,175	2,000	19.4%
対売上比	10.8%	15.0%	
純利益	810	1,300	17.1%
EPS	162円	230円	12.4%
ROE	7.8%	10%以上	

CAGR : 年平均成長率 EPS : 1株当たり利益 ROE : 株主資本利益率

本中期経営計画では、中長期的に成長させる事業分野を医療関連事業(治療薬事業、輸液事業)、NC関連事業とし、戦略的に取り組む事業分野を、医療機器、大豆ビジネスと定義しています。



企業理念が刻まれた石碑

重点施策には 何を取り上げますか

本中期経営計画期間では、多様な事業が利益貢献し、事業リスクを分散しながら成長を続けることのできる体制構築を目指します。

■中期経営計画 重点施策

①医療関連事業での価値の提供と収益最大化

- 医療価値最大化による継続的成長
- 革新的新薬の創出

②NC関連事業の拡大と利益成長

- 新製品導入及びエリア展開による発展
- 収益性の改善

③次期中期経営計画への布石

- 新規分野の育成
- 変革をもたらすための仕組み作り

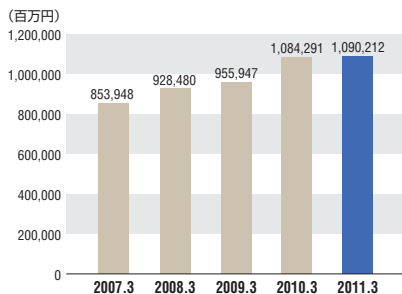
④企業価値最大化に向けた取り組みと株主還元

- 成長投資・アライアンス戦略、財務戦略・株主還元方針

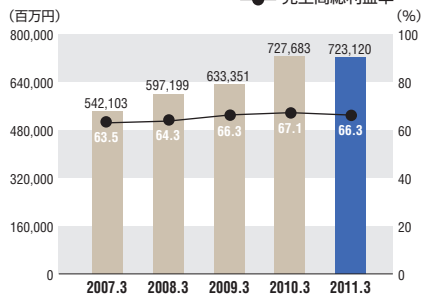
皆様のご期待に添えるよう頑張っておりますので、尚一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



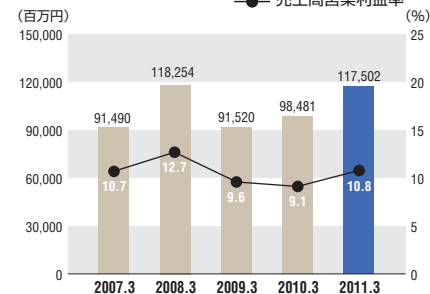
売上高



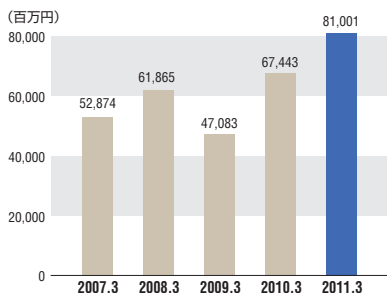
売上総利益



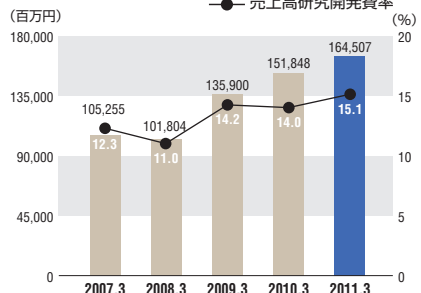
営業利益



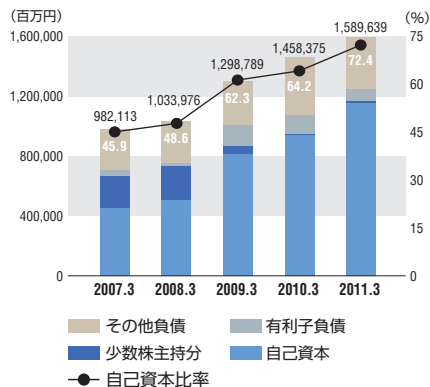
当期純利益



研究開発費

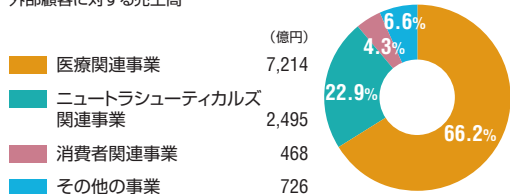


資本構成



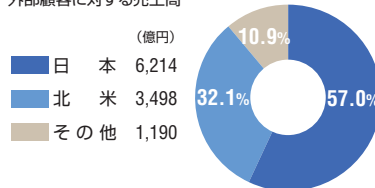
事業セグメント別売上高

外部顧客に対する売上高



所在地セグメント別売上高

外部顧客に対する売上高



2008年3月期以前の連結数値は、株式移転完全子会社である大塚製薬株式会社の連結数値となっています。

医療関連事業

当社の「医療関連事業」では、未充足な医療ニーズに対応するため、重点領域として中枢神経領域、がん領域に注力しています。さらに、病気の診断から治療に至る包括的なヘルスケアを提供すべく循環器領域、消化器領域、眼科領域、診断薬、輸液事業、医療機器事業など多岐に亘る領域・事業に取り組んでいます。

治療薬

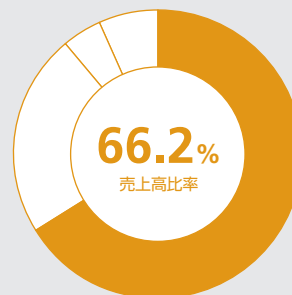
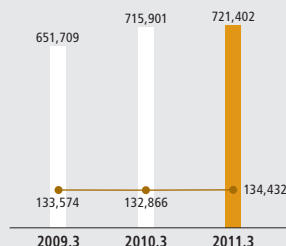
輸液(臨床栄養)

診断薬

医療機器

Pharmaceutical Segment

業績推移 (百万円) ●—セグメント利益



中枢神経領域では、抗精神病薬「エビリファイ」が米国にて医療制度改革の影響や経済低迷の中においても成長を続けています。また、2010年9月には、UCB社と共同開発・販売等のアライアンスを進める抗てんかん薬「イーケブラ」を国内で新発売しました。

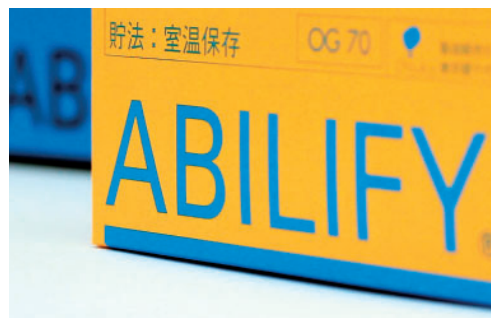
がん領域では、プリストル・マイヤーズ スクイブ カンパニー社(BMS社)との共同販促契約に基づき、抗がん剤「スプリセル」の共同販促を米国で2010年11月、日本で2011年1月より開始しました。また、抗がん剤「ティーエスワン」などの既存品が薬価改定等の影響を受け売上が伸び悩む中、制吐剤「アロキシ」、抗がん剤「アブラキサン」といった新薬の売上が業績に貢献しました。

循環器領域では、水利尿薬「サムスカ」が米国、欧州に続き、国内で新発売となりました。

眼科領域では、胃炎・胃潰瘍治療剤「ムコスタ」を応用

した「ムコスタ点眼液」を国内で申請しました。また、海外ではアキュセラ社との眼科領域におけるアライアンスを拡大し、今後の米国での新規事業体制を強化しました。

臨床栄養分野では、高カロリー輸液「エルネオパ」が順調に伸長しました。



ニュートラシューティカルズ関連事業

当社の「ニュートラシューティカルズ関連事業」では、日々の健康の維持・増進をサポートする機能性飲料・機能性食品を中心に事業を展開しています。近年では、健康問題、食糧問題、環境問題など人類が抱える様々な問題を「大豆(Soy)」が「解決(Solution)」するという考え方「Soylution」をテーマに大豆ビジネスに取り組んでいます。

機能性飲料・機能性食品 健粧品(コスメディクス*)

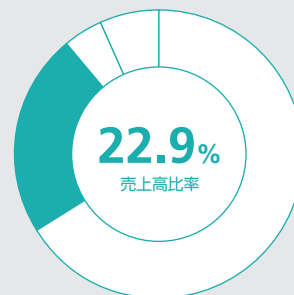
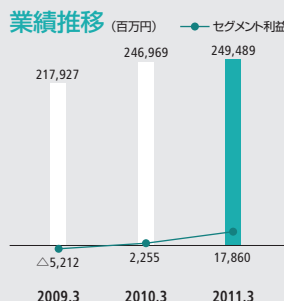
OTC医薬品・医薬部外品

*cosmetics(化粧品)+medicine(医薬品)の造語

イオン飲料「ポカリスエット」は、国内では製品コンセプトの訴求に注力した販促活動と熱中症の更なる啓発活動、また、猛暑の影響もあり、大きく売上が伸長しました。海外においては順調に推移していたインドネシアで、新技術導入に伴う工場新設スケジュールの遅れにより、一時的に供給不足となりその後速やかに解消しましたが、現地通貨ベースで微減となりました。「オロナミンC」は販促活動が功を奏し堅調に推移し、バランス栄養食「カロリーメイト」はほぼ横ばいで推移、震災時には必要な栄養をバランス良く摂取できる緊急食として注目されました。

「Soylution」第1弾である「SOYJOY」は国内では減収となりましたが、新たに欧州4カ国(フランス、ベルギー、イタリア、スペイン)で2011年2月より順次販売を開始し、米国、中国に続きグローバル展開を進めています。また、「Soylution」第2弾として、大豆と炭酸の組み合わせという

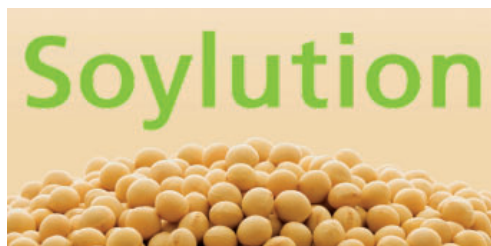
Nutraceutical Segment



新発想の大豆サイダー「SOYSH」の一般小売店での全国展開を2011年3月より開始しました。

「肌の健康」をテーマにした健粧品(コスメディクス)分野では、全身スキンケアブランド「UL・OS」が、2010年4月に「薬用スキンウォッシュ」を発売しラインアップを拡充しました。

当事業においては、当社本来の製品価値訴求型の販促活動に注力するとともに、継続したコスト構造の見直しなど収益改善に向けた取り組みを推進し、売上高、営業利益ともに対前期比増と、成果をあげました。



消費者関連事業

Consumer Products Segment

当社の「消費者関連事業」では、皆様に身近な食品、飲料を中心に、生活に潤いと活力をもたらす、安全で健康的な製品の研究開発、製造販売を行っています。

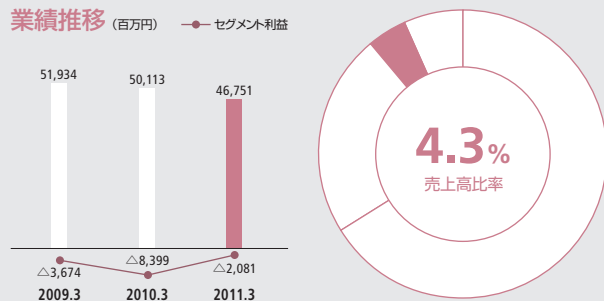
水

食品

酒類

業績推移

(百万円) ● セグメント利益



「クリスタルガイザー」を中心とするミネラルウォーターと「ジャワティ」は苦戦、「ネスカフェ」は微増となりました。微炭酸飲料「マッチ」は若年層を狙ったプロモーションが功を奏し伸長しました。当事業においては、収益改善に向けた様々な施策を継続しています。



その他の事業

Other Segment

当社の「その他の事業」では、化学製品および運輸・倉庫業、電子機器など多角的に事業を展開しています。

機能化学品

ファインケミカル

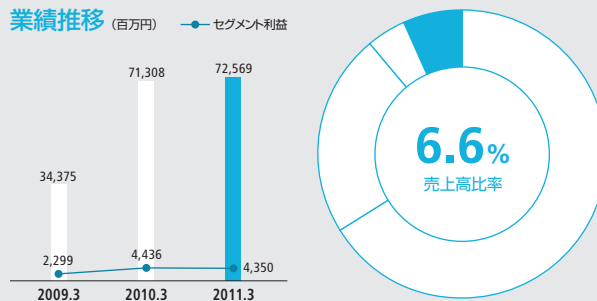
物流

包装

電子機器

業績推移

(百万円) ● セグメント利益

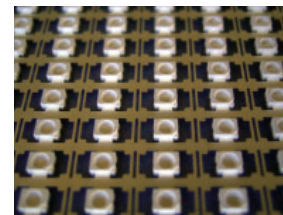


機能化学品分野では複合材料「ポチコン」がLED市場の成長により拡大しました。また、自動車向けの機能材料「ティスモ」や「テラセス」の売上が市場の回復もあり伸長しました。

【ポチコン用途例】



自動車部品
クラッチスリーブベアリング
(アルミ軸を支える滑り軸受け)



電子部品LEDリフレクター
(光の取り出し効率を上げる反射板)

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2011年3月31日 現在)	(2010年3月31日 現在)
[資産の部]		
流動資産	921,153	751,515
固定資産	668,416	706,797
有形固定資産	256,832	260,935
無形固定資産	77,088	88,399
投資その他の資産	334,495	357,463
投資有価証券	261,203	278,522
繰延税金資産	32,245	33,974
その他	41,140	45,252
貸倒引当金	△ 92	△ 286
繰延資産	69	62
資産合計	1,589,639	1,458,375
[負債の部]		
流動負債	275,559	311,809
固定負債	150,832	198,109
負債合計	426,392	509,919
[純資産の部]		
株主資本	1,198,208	962,105
資本金	81,690	42,946
資本剰余金	510,639	432,482
利益剰余金	605,882	532,032
自己株式	△ 4	△ 45,354
その他の包括利益累計額	△ 48,084	△ 25,816
新株予約権	464	—
少数株主持分	12,658	12,166
純資産合計	1,163,247	948,456
負債純資産合計	1,589,639	1,458,375

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(自 2010年4月 1日 至 2011年3月31日)	(自 2009年4月 1日 至 2010年3月31日)
1 売上高	1,090,212	1,084,291
売上原価	367,092	356,607
売上総利益	723,120	727,683
2 販売費及び一般管理費	605,617	629,202
営業利益	117,502	98,481
営業外収益	17,583	14,859
営業外費用	8,567	4,282
経常利益	126,518	109,057
特別利益	5,909	370
特別損失	11,153	7,488
税金等調整前当期純利益	121,274	101,939
法人税、住民税及び事業税	33,197	52,642
法人税等調整額	5,511	△ 19,157
少数株主利益	1,564	1,011
当期純利益	81,001	67,443

Point 1 売上高

【医療関連事業】

- ◎抗精神病薬「エビリファイ」の米国売上が効果的な販促施策により継続的に成長を続けました。
- ◎制吐剤「アロキシ」及び抗がん剤「アブラキサン」を新発売し、国内がん領域での売上が拡大しました。
- ◎抗がん剤「スプリセル」のBMS社との共同販促を米国及び日本で開始し、契約に基づいた受取分配金を売上として計上しました。

【ニュートラシューティカルズ関連事業】

- ◎「ボカリスエット」が製品コンセプトの訴求に注力した販促活動及び猛暑の影響もあり、大きく売上が伸長しました。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	当 期	前 期
	(自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)	(自 2009年4月1日 至 2010年3月31日)
3 営業活動によるキャッシュ・フロー	86,393	173,508
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 130,878	△ 59,014
4 財務活動によるキャッシュ・フロー	113,655	△ 28,139
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 4,689	958
現金及び現金同等物の増加額	64,481	87,313
現金及び現金同等物の期首残高	321,306	230,104
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	1,538	3,889
現金及び現金同等物の期末残高	387,325	321,306

Point 2 販売費及び一般管理費

当期における研究開発費は、アリビプラゾール持続性注射剤やOPC-34712など医薬品開発品目の開発ステージの進捗により164,507百万円(対前期比8.3%増)となりました。

Point 3 営業活動によるキャッシュ・フロー

前期は、BMS社との抗精神病薬「エビリファイ」の契約更新に伴う一時金(400百万ドル)を受領したこと、及び当期は当該一時金にかかる法人税を支払ったこと等により、営業活動により獲得したキャッシュ・フローが減少しました。

Point 4 新株の発行、自己株式の処分及び財務活動によるキャッシュ・フロー

2010年12月15日の上場の際に38,678千株の新株の発行と42,550千株の自己株式の処分を実施し、これらにより総額1,627億35百万円の資金調達を行いました。

連結株主資本等変動計算書(要旨)

当 期(自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	株主資本					その他の 包括利益 累計額	新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合 計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計				
2010年3月31日残高	42,946	432,482	532,032	△ 45,354	962,105	△ 25,816	—	12,166	948,456
連結範囲の変動			△ 1,193		△ 1,193				△ 1,193
剰余金の配当			△ 5,956		△ 5,956				△ 5,956
4 新株の発行	38,744	38,744			77,489				77,489
4 自己株式の処分		39,412		45,354	84,766				84,766
自己株式の取得				△ 4	△ 4				△ 4
当期純利益			81,001		81,001				81,001
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△ 22,268	464	491	△ 21,311
連結会計年度中の変動額合計	38,744	78,157	73,850	45,350	236,102	△ 22,268	464	491	214,791
2011年3月31日残高	81,690	510,639	605,882	△ 4	1,198,208	△ 48,084	464	12,658	1,163,247

開発品の状況

開発品目一覧

2011年3月末現在で第Ⅲ相臨床試験段階(フェーズⅢ)以降にある開発品目を以下に示します。
(詳細は当社ホームページをご覧ください。)

領域	開発コード/製品名(一般名)	効能/剤型	開発段階					
			日本		米国		欧州	
			フェーズⅢ	申請中	フェーズⅢ	申請中	フェーズⅢ	申請中
中枢神経領域	OPC-14597 (エビリファイ) (アリピプラゾール)	統合失調症/持効性注射剤	●		●		●	
		双極性障害躁病/経口剤		●				
		大うつ病補助療法/経口剤	●					
		大うつ病/経口合剤			●			
	L059 (イーケブラ) (レベチラセタム)	小児てんかん部分発作/経口剤	●					
		てんかん全般発作/経口剤	●					
SPM-962 (ロチゴチン)	パーキンソン病/貼付剤	●						
	レストレスレッグス症候群/貼付剤	●						
がん・がんサポーター領域	S-1 (ティーエスワン) (テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム)	胃がん/経口剤			●			
		子宮頸がん/経口剤	●					
		肝細胞がん/経口剤	●					
	ABI-007 (アブラキサ) (アルブミン結合パクリタキセル)	非小細胞肺がん/注射剤	●					
		OVF (フェンタニル)	がん性疼痛/口腔粘膜吸収剤	●				
		TSU-68	肝細胞がん/経口剤	●				
OTS102	脾がん/注射剤	●*1						
循環器領域	OPC-41061 (サムスカ) (トルバプタン)	常染色体優性多発性嚢胞腎/経口剤	●*2		●*2		●*2	
		肝性浮腫/経口剤	●					
その他領域	CDP870 (セルトリスマブペゴル)	関節リウマチ/注射剤	●*1					
	OPC-12759E (ムコスタ点眼液) (レバミピド)	ドライアイ/点眼剤		●				
	OPC-262 (サキサグリブチン)	2型糖尿病/経口剤	●*1					
	OPC-6535 (クトミラスト)	クローン病/経口剤	●*1					
	YP-18 (ゾシン) (ビベラシリン、タソバクタム)	腹膜炎、腹腔内膿瘍、肝膿瘍、胆嚢炎、胆管炎/注射剤	●					
診断薬	ODK-0901 (ラビラン肺炎球菌HS (中耳・副鼻腔炎))	肺炎球菌感染症 診断補助/体外診断薬		●				
	ODK-0902 (インフルエンザELISAキット「オーツカ」)	インフルエンザ感染症 診断補助/体外診断薬		●				

*1 フェーズⅡ/Ⅲ *2 フェーズⅡ-Ⅲ追加臨床試験を準備中

医療関連事業 トピックス

グローバル基礎研究の中核 創薬研究棟「第十研究所」竣工

2010年4月、創薬基礎研究のグローバル拠点となる「第十研究所」を徳島に竣工しました。薬理部門と合成部門の融合を目指したこの新しい研究棟は、研究者が毎日自由に席を選べるフリーアクセスの居室、ホワイトボードの壁など、研究者の活発な交流とディスカッションを促す工夫が随所に施されています。全く異なる分野の研究者が常にコミュニケーションを取ることによって新たな発想を刺激し、大塚ならではの革新的医薬品の創出を目指します。

「アロキシ」制吐剤



制吐剤「アロキシ静注0.75mg」を国内で2010年4月に発売しました。本剤はスイスのヘルシン社とのライセンス契約に基づき、大鵬薬品が国内での開発・販売を行っています。「アロキシ」は、癌化学療法に伴う急性悪心、嘔吐のみならず、従来の薬剤では効果が不十分であった遅発性悪心・嘔吐にも有効性が確認されています。既に60カ国以上で承認されている実績のある薬剤であり、欧州臨床腫瘍学会(ESMO)/国際がんサポーターブケア学会(MASCC)の「国際制吐療法ガイドライン2009」において、癌化学療法に伴う悪心、嘔吐の予防に用いる薬剤として推奨されています。

「アブラキサン」抗がん剤



抗がん剤「アブラキサン点滴静注用100mg」を国内で2010年9月に発売しました。本剤は、米国アブラキ西斯・バイオサイエンス社とのライセンス契約に基づき、大鵬薬品が国内での開発・販売を実施しています。乳がん治療における新規製剤として、有効性と安全性を改善し、かつ従来の薬剤に比べて簡便に投与できるという特性を有しています。薬剤の点滴時間が30分と短縮されるため、患者さんの負担が軽減し、外来化学療法の効率化の一助となることが期待されます。既に40カ国以上で承認されている薬剤です。

「イーケプラ」抗てんかん薬



従来の薬剤と全く異なる作用機序を持つ抗てんかん薬「イーケプラ錠250mg、500mg」を2010年9月に発売しました。本剤はベルギーのUCB社が創製し、国内では大塚製薬とユーシービー・ジャパンが共同開発・販売を行っています。「他の抗てんかん薬で十分な効果が認められていないてんかん患者の部分発作(二次性全般化発作を含む)に対する抗てんかん薬との併用療法」の効能・効果で承認を取得しています。同剤は1999年に米国で承認されて以来、現在では90カ国以上で使用されています。

「サムスカ」水利尿薬



自社で創製した水利尿薬「サムスカ」を米欧に続き国内で2010年12月に発売しました。「サムスカ」は腎臓の集合管において、バソプレシン(抗利尿ホルモン)の V_2 -受容体への結合を選択的に阻害することで、ナトリウムなどの電解質排出を増加させず水分のみを排出するという新規の作用機序を有し、海外での低ナトリウム血症の適応症取得に続き、国内では心不全における体液貯留改善の効能・効果を取得した世界で初めての経口水利尿薬です。「サムスカ」は、これまで治療法が限られていた心不全による体液貯留の治療に新たな選択肢を提供します。



第十研究所 外観



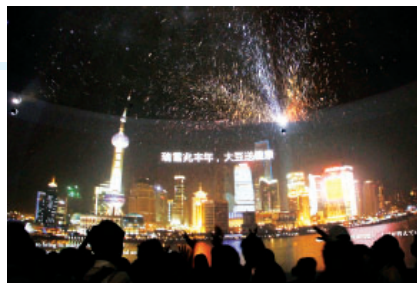
フリーアクセスの居室

上海万博 日本産業館に出展

2010年5月から10月の6カ月間、中国上海市で開催され、史上最多の7,308万人の入場者数を記録した上海万博の日本産業館に大塚製菓が出展しました。大塚製菓は、身近で栄養豊富な食材「大豆(Soy)」が健康問題、食糧問題、環境問題など人類が抱える様々な問題を「解決(Solution)」するという「Soylution」をコンセプトにした映像展示を行いました。

「人類と地球のたからもの～大豆～」と題したこの映像は、中国で5千年前に生まれ日本をはじめ世界中に広がった大豆が、人類と地球をより健康で豊かな暮らしへ導いていく、というメッセージをスケール感あふれる映像、音楽とともに届けました。

大塚製菓が出展した日本産業館は、連日数時間入館待ちの長蛇の列ができる人気館となり、累計来場者数は約570万人となりました。日本産業館1階の未来郵便局販売コーナーでは、当社出資先の維維食品飲料が「SOYJOY」5本入り記念パックを販売し、70品目以上の販売アイテムの中で売上個数No.1になるなど、大変好評を博しました。



| ニュートラシューティカルズ関連事業 |

大豆サイダー「SOYSH(ソイッシュ)」全国店頭販売開始

フルーツ大豆バー「SOYJOY」に続く、「Soylution」をテーマにした製品第2弾として、大豆サイダー「SOYSH(ソイッシュ)」の全国店頭販売を2011年3月に開始しました。「SOYSH」は、「まるごと大豆」×「炭酸」という新発想で、栄養豊富な大豆をより手軽に美味しく摂取できる飲料として開発しました。

2010年7月に大塚製菓の通信販売サイト限定で発売したところ、大豆と炭酸という過去にない組み合わせがブログやツイッター上で話題を呼び、わずか4カ月で累計販売本数100万本を突破しました。こうした多くの反響や売上全体に占める高いリピーター率(約60%)を背景に、当初の計画を前倒して全国店頭販売に踏み切りました。

また、インターネット上でも「かわいらしい」と話題になった「SOYSH」のパッケージは、2011年1月に日本パッケージデザイン大賞の飲料部門で金賞を受賞しました。

将来的にはグローバル市場も視野に展開していきます。



東日本大震災への支援

当社は、世界23カ国・地域で働く39,000人*の社員全員の総意として、一人あたり1万円に相当する金額(3億9,000万円)を義援金として、日本赤十字社に寄付しました。また、支援物資については、飲料・食品、医療用医薬品、OTC医薬品、その他日用品など、グループ各社の製品を被災地にお届けしています。

子どもの支援が、被災地の一日も早い復興に結びつくことを祈念しています。

* 非連結のグループ会社を含む

支援物資の状況 (2011年5月31日現在)

飲料・食品	「ポカリスエット」「オーエスワン」「オロナミンC」「チオピタ・ドリンク」「クリスタルガイザー」「カロリーメイト」「SOYJOY」「ネイチャーメイド マルチビタミン」「ボンカレー」 他メディカルフーズ製品 総計 約175万食相当
医療用医薬品	輸液、流動食、消毒液、治療薬
	OTC医薬品
	その他日用品



大塚グループ社員及び関係者による支援活動



| 大塚国際美術館 |

～和と洋のコラボレーション～ システィーナ歌舞伎 「スサノオsusano」上演

大塚国際美術館では、ヴァチカンのシスティーナ礼拝堂を原寸大に立体再現した「システィーナ・ホール」を舞台にし、新作歌舞伎「スサノオ」を2010年11月13・14日に上演しました。巨匠・ミケランジェロが描き上げた「天地創造」や「最後の審判」という聖書の世界の中で、日本の神話をモチーフにした歌舞伎の和が見事に調和した、西洋と東洋の文化の競演という他にはない試みが話題を呼び、2日間の公演はすべて満席となりました。

大塚国際美術館は、大塚グループ創業75周年記念事業として1998年に徳島県鳴門市に設立した、世界でただ一つの陶板名画美術館です。古代遺跡や教会壁画、世界25カ国190余の美術館が所蔵する古代から現代まで1,000余点の世界の名画を大塚オーミ陶業の特殊技術によってオリジナル作品と同じ大きさで再現。半永久的に色褪せず、原画の持つ美術的価値を伝えます。

大塚国際美術館ホームページ

<http://www.o-museum.or.jp/>

◎大塚ホールディングス株式会社(Otsuka Holdings Co., Ltd.)

設立 2008年7月8日

資本金 816億90百万円

本店 〒101-0048

東京都千代田区神田司町二丁目9番地

東京本部 〒108-8241

東京都港区港南二丁目16番4号

品川グランドセントラルタワー

従業員 73名(大塚ホールディングス連結従業員数:25,188名)

連結対象会社数 連結子会社 69社、持分法適用会社 12社

事業内容 医療関連事業、ニュートラシューティカルズ関連事業、消費者関連事業、
その他の事業を営む会社の株式を所有することによる当該会社の事業
活動等の支配及び管理ならびにそれに附帯関連する一切の事業等

URL <http://www.otsuka.com/>

◎役員紹介

代表取締役会長	大塚 明彦
代表取締役副会長	大武 健一郎
代表取締役社長兼CEO	樋口 達夫
取締役副社長	大塚 一郎
専務取締役	牧瀬 篤正
常務取締役	山崎 勝也
常務取締役	東條 紀子
常務取締役	松尾 嘉朗
取締役	大塚 雄二郎
取締役	小林 幸雄
取締役	戸部 貞信
常勤監査役	加藤 昌彦
社外監査役	勝田 泰久
社外監査役	矢作 憲一
社外監査役	菅原 洋

◎事業セグメント

医療関連事業	ニュートラシューティカルズ 関連事業	消費者関連事業	その他の事業
治療薬	機能性飲料・機能性食品	水	機能化学品
輸液(臨床栄養)	健粧品(コスメティクス*)	食品	ファインケミカル
診断薬	OTC医薬品・医薬部外品	酒類	物流
医療機器			包装
			電子機器

* cosmetics(化粧品)+ medicine(医薬品)の造語

◎株式の状況

●発行可能株式総数	1,600,000,000株
●発行済株式の総数	557,835,617株
●株主数	61,141名

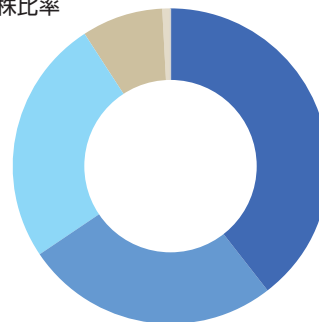
◎大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
野村信託銀行株式会社 大塚創業家持株会信託口	64,981	11.64
大塚エステート有限会社	40,529	7.26
大塚グループ従業員持株会	30,224	5.41
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	15,349	2.75
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	14,171	2.54
野村ホールディングス株式会社	12,195	2.18
大塚アセット株式会社	12,000	2.15
株式会社阿波銀行	10,970	1.96
東邦ホールディングス株式会社	7,670	1.37
株式会社りそな銀行	5,064	0.90

(注)1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
2. 持株比率は自己株式(2,044株)を控除して計算しています。

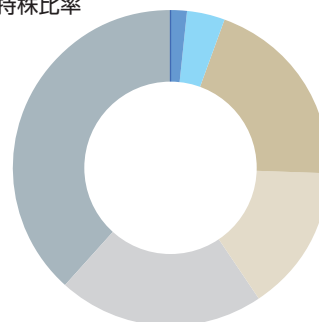
◎株式分布状況

●所有者別持株比率



個人・その他	59,730名	39.50%	外国法人等	346名	8.24%
金融機関	73名	26.19%	証券会社	42名	0.67%
その他の法人	949名	25.40%	自己株式	1名	0.00%

●所有株数別持株比率



100株未満	610名	0.00%
100株以上1,000株未満	46,366名	1.80%
1,000株以上10,000株未満	9,836名	3.97%
10,000株以上100,000株未満	3,926名	19.98%
100,000株以上1,000,000株未満	334名	15.08%
1,000,000株以上5,000,000株未満	59名	20.96%
5,000,000株以上	10名	38.21%

◎株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
基準日	定時株主総会・期末配当金 中間配当金	3月31日 9月30日
定時株主総会	毎年6月	
1単元の株式数	100株	
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-7111(通話料無料)	
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部	
公告方法	電子公告 公告掲載アドレス http://www.otsuka.com/ (ただし、事故その他やむを得ない事由によつて、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)	

◎株式に関するお手続きについて

株式に関する各種お手続きにつきましては、ご所有の株式が記録されている口座(証券会社等の口座・特別口座)によって窓口が異なりますので、ご注意ください。

お手続き・ ご照会の内容	特別口座に 記録された株式	証券会社等の 口座に 記録された株式
単元未満株式の買取・買増請求 届出住所・氏名等の変更 配当金の受領方法・振込先の変更	特別口座の口座 管理機関である 「三菱UFJ信託 銀行株式会社」 にお問い合わせ ください。	口座を開設され ている証券会社 等にお問い合わせ ください。
特別口座の残高照会 特別口座から一般口座への振替請求	—	—
郵便物の発送・返戻に関するご照会 未払い配当金に関するご照会 その他株式事務手続きに関する一般的なご照会	株主名簿管理人である「三菱UFJ 信託銀行株式会社」にお問い合わせ ください。	—

株主優待のご案内

対象となる株主様

毎年3月31日現在の株主名簿に記載されている100株
(1単元)以上ご所有の株主様

ご優待の内容

3,000円相当の当社グループ製品



2011年3月31日現在、
100株(1単元)以上ご所有
の株主様には、左記「ボ
カリスエット・カロリーメ
イト・SOYSH・SOYJOY
詰め合わせ」をお届けいた
します。

HPのご案内

当社のIRサイトでは、決算資
料などの各種資料、決算説明会
の動画配信などのIR関連情報
をご覧ください。

大塚ホールディングス ホームページ

<http://www.otsuka.com/>

IRサイト

<http://www.otsuka.com/jp/ir/>



【表紙写真について】

医薬品研究棟「ハイゼットタワー」(1983年竣工)。壁面には岡本太郎画伯の作品
「いのち躍る」(命名 瀬戸内寂聴尼)を陶板画として展示

大塚ホールディングス株式会社

<http://www.otsuka.com/>

